

(118) 栃木県塩谷郡塩原の赤川鉦山

参考文献(1)を手引きに探査を行った。塩原の元湯温泉から赤川を遡った沢近傍にある鉦山である。文献によれば、主要鉦種は亜鉛・硫化鉄。何度かの探査の結果、現地を確認した。ズリ跡らしいものは見つけられなかったが、小さいながら、硫化鉄の結晶で一杯の露頭鉦脈を見つけることができた。そこから、良好な標本を採集することもできた。

鉦山跡までの経路は次の通りである。矢板方面から北上してきたならば、400号に入り、塩原温泉地区を目指して、北西方向に進んでいく。塩原温泉地区付近で、400号のバイパスに入っていく。日塩有料道路への案内板を横目で見て、先に進む。図1中の宮島地区の少し先で、元湯温泉への案内板に従って、左折し、細い道へと入り、元湯を目指し、南西方向に進んで行く。元湯温泉近傍では、道は直線道と左折道の2つに分岐している。大きく左折している道は下りとなり、元湯に行き着く。左折しないで、直進路をとるが、少し先で、ゲートがあり、車の通行が不可となっている。ゲートの手前あたりに適当な空き地があるので、ここで車を降りよう。

もう1つの経路がある。鬼怒川温泉から、121号で、北上してきたならば、上三依地区で、400号に入り、東進して、前述の元湯の案内板の所で、この場合は、右折することになる。後は同じである。

探査日 2012年4月

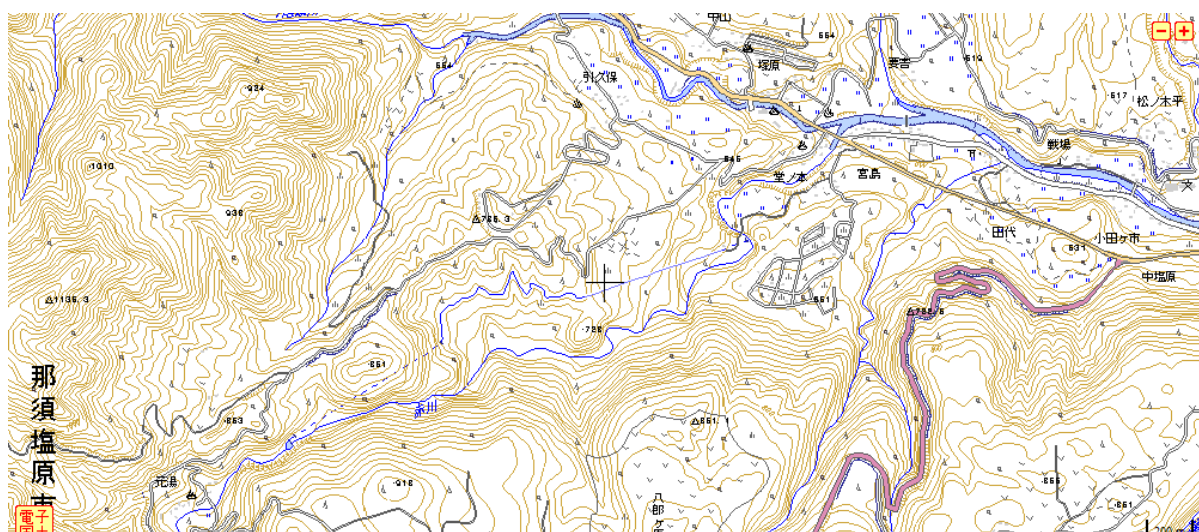


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。400号から元湯への道がわかる。

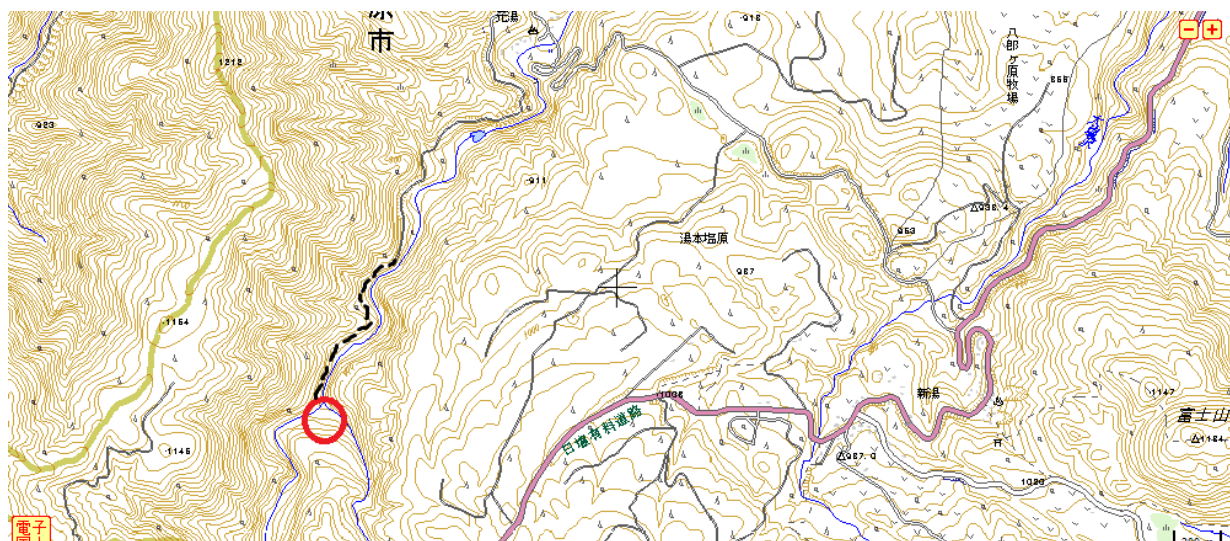


図2 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。図1の地形図に引き続く、南部の地形図である。赤丸が鉦山跡。黒波線で、赤川左岸にのびている道を記載している。なを、元湯から赤川上流は、ハイキングコースとなっている。鉦山訪問に、ハイキングも組み入れると、一石二鳥であろう。

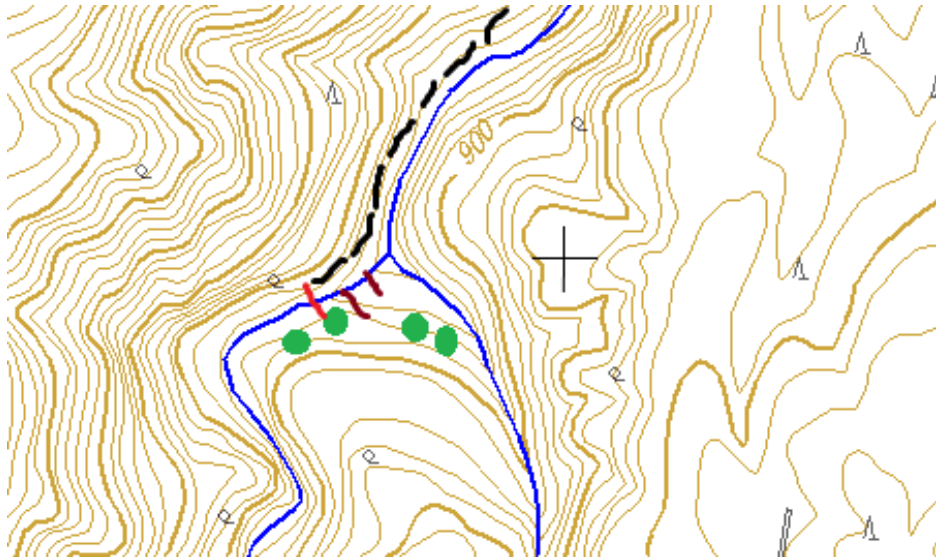


図3 図2の部分拡大図。黒波線は道。沢の分岐点付近まで道はある。鉱山跡へは適当なところで沢を渡る必要がある。水量が多いときには、長靴などに水が入らないような工夫が必要である。緑丸が坑口跡。右側の連続している2つは縦穴と思われる。赤線分は橋跡。茶色線分は露頭鉱脈。

鉱山跡写真



写真1 手前、左下に、元湯温泉が位置している。ここから歩いていこう。写真2でわかるように、この道は、赤川溪谷線歩道の名のハイキングコーストになっている。



写真2 赤川林道を、ゲートから進んできた途中にあった案内板。目の下の沢には、吊り橋が架かっている。鉱山跡へは、赤川の左岸にのびている道を先へ先へと進んでいく。



写真3 図2に示している、赤川の分流点付近で、上流を見ている。左右2つの沢に分岐している。右が赤川本流、左が支流の鎌研沢。歩いてきた道から沢に降り、沢を渡る必要がある。水量が多いときには、渡渉に注意。赤川本流の少し先に、橋の基台が残っていた。



写真4 分岐点の上部は、広い多段のプラトーとなっている。1つのプラトー一面には近接して2つの大きな穴跡を確認した。手前と奥である。文献(1)との対応から、縦穴跡と思われる。



写真5 赤川本流にあった、橋の基台。鉾山施設の1つとして、この橋を架けたとすれば、経営が良好な時期もあったと思われる。



写真6 確認できた坑口跡。赤川本流右岸の少し上部にあった。沢底より撮影。



写真7 沢底で確認できた露頭鉍脈。左上から、右下へ、そして、沢底で隠れていた。脈幅は30cmから50cm。表面の1部の様子は写真8を参照。

採集鉍物写真



写真8 露頭脈の表面の様子。大きさ1mm立方から数mm立方の立方体形状の黄鉄鉍の微結晶が充ち満ちていた。採集した一番大きな単結晶は約5mm立方。左側の灰色のブロックは、微結晶が詰まっており、右側の黄色のブロックは、ほとんど微結晶だけの固まりであった。2つとも良好標本として採集。

参考文献

(1)「栃木県塩谷郡三依・塩原地区地下資源調査報告」、梅本悟、郷原範造、地質調査所 鉍物資源資料 No. 2210, 調査年1953年。

赤川鉦山跡追探查

2012年4月に本鉦山を紹介していた。その後、岩友などの案内なども兼ねて、何回か本鉦山跡を再訪した。以下のようなことから、追記を書くこととした。

- (1) GPSであるガーミンで現地へのしっかりとした経路図が得られたこと。
- (2) 現地へのより最短な経路を見つけたこと。
- (3) 既報の露頭鉦脈跡は、土砂崩れで埋没しまっていた。が、他の箇所に良好な露頭鉦脈を見つけ出したこと。
- (4) 2012年時、手元にはなかった赤川鉦山の鉦山図をその後入手したこと。

概説

(1) 2012年当時はガーミンが手元になく、地形図に手書きでルート、確認場所などを書き込んでいた。山中でのことであり、不正確さは免れない。その後、ガーミンを入手したので、非常に正確に経路を描写でき、位置の正確な確定もできるようになった。なを、著者によるガーミンの経路図の信頼性は近年の著者の探查した鉦山跡の探查記を閲覧すれば理解できよう。

(2) 旧探查記中の現地の地形図(図2)を見ると、現地へは日塩有料道路からも辿れるのではないかと考えた。そして、現地に近い日塩道路の途中から、ガーミンを頼りに、進行方向を決めながら、現地に辿り着くことができた。直線距離では元湯からのルートの3分の1程度である。が、このルートを往復するならば、標高差150m強を上下することにはなるが。更には、有料道路なので、料金支出も要する。

(3) 元湯と現地のルートをとる場合、現地近傍で赤川を横断する必要がある。水量が多い場合には注意を要する。不安ならば、日塩道路からのルートをとると良い。

なをこの追探查記は、何回かの現地訪問を重ね合わせた報告書であることに留意すること。

探查日 2018年10月、その他

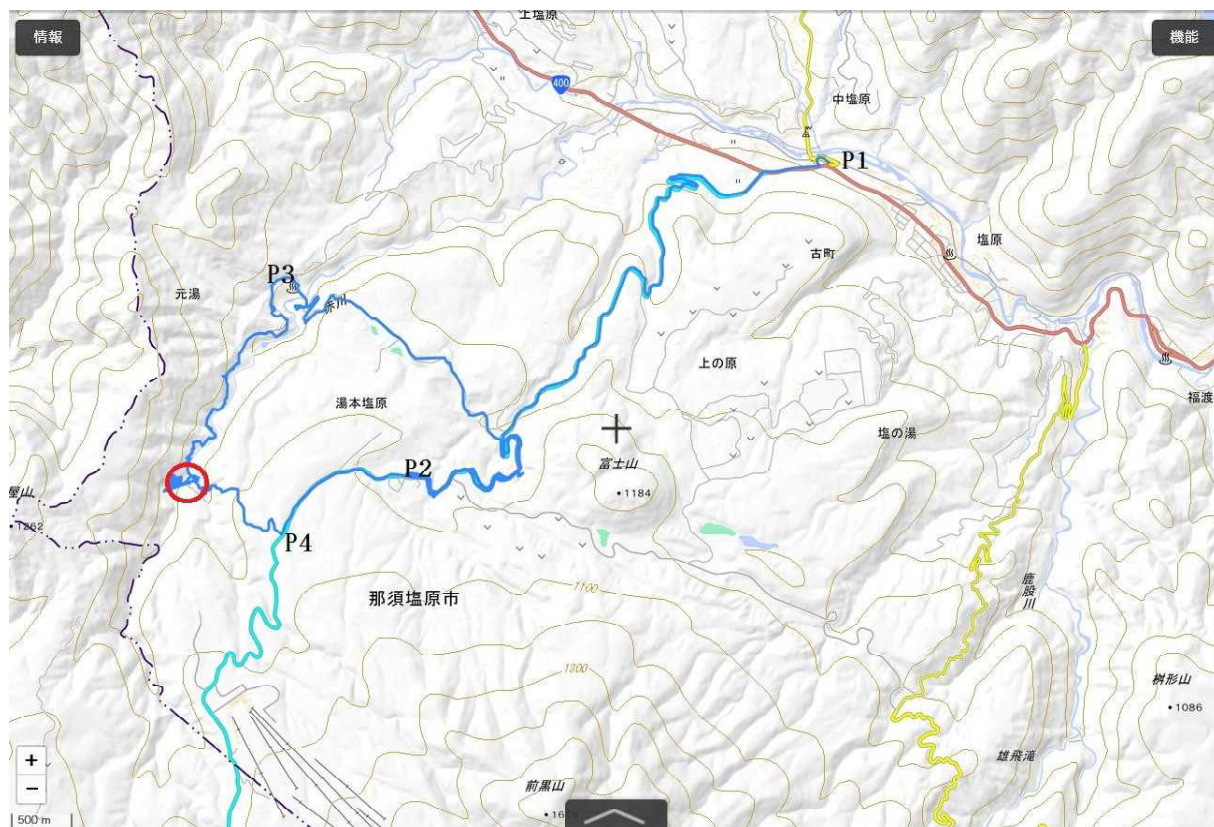


図1 赤丸が赤川鉦山跡。P3が元湯近傍の駐車場。旧探查記ではP3から赤川沿いに現地の経路をとった。P4は駐車した日塩道路の途中。P1、P2は加者者が多数の時に集合場所として利用した駐車場。なを、P1は塩原市役所支所の駐車場。P1、P2は共に公衆トイレ付きである。

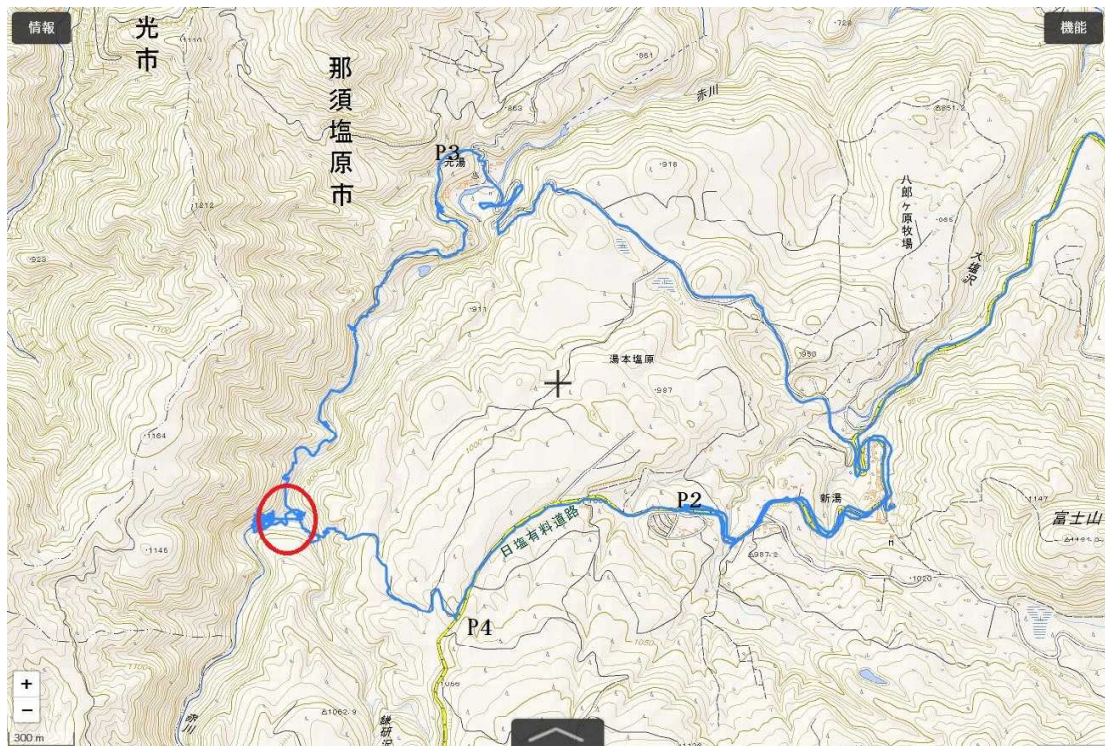


図2 この経路図は新湯を通過して、料金所手前の駐車場P2に車を置き、そこから有料道路を歩いて、P4の所から現地に向かって林道を、そして道無き林の中を降りたのを描いている。現地から赤川沿いに下り、P3で、前もってデポしていた車に乗った。P4まで車で行くのもよしである。但し料金を支払う必要がある。幾つかのルートがあるので、それぞれで選択すれば良い。元湯、新湯で一日の汗を流すのもよい。

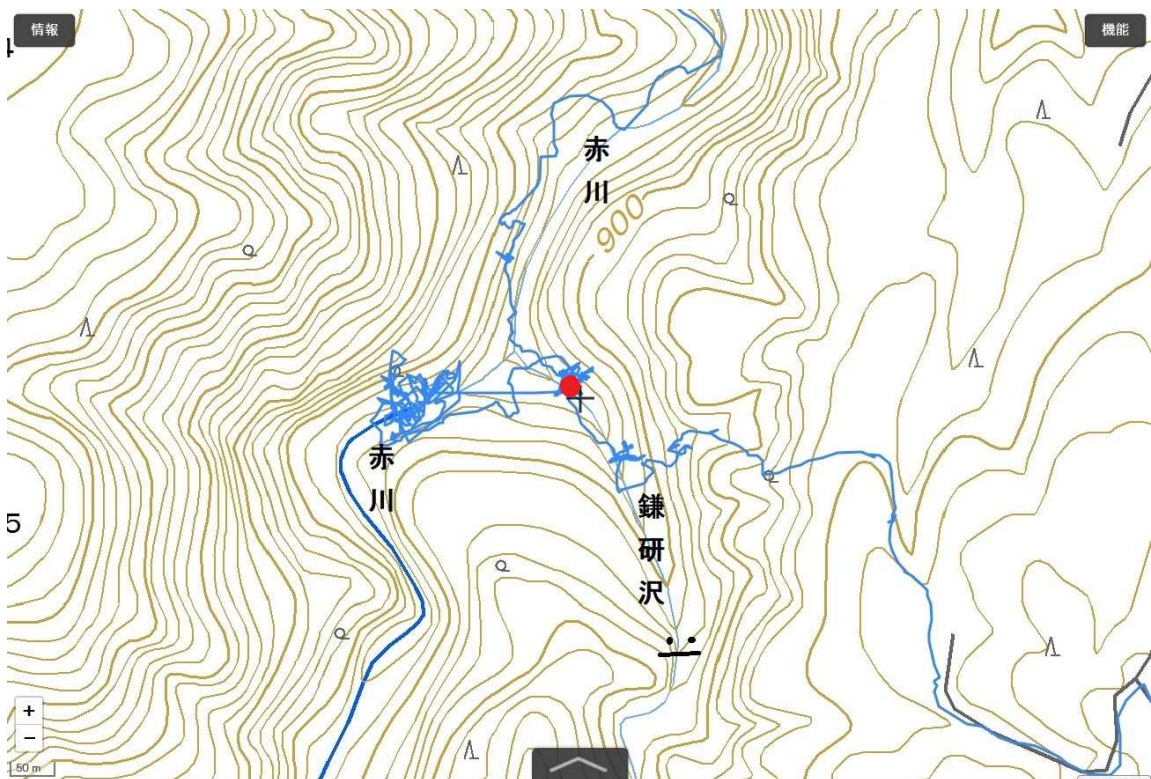


図3 既報の図3と比較すると良い。日塩道路から伸びている林道を途中で外れる。その先には道はない。が、鎌研ぎ沢直前までは容易な林中ハイキングであろう。途中途中で、赤色テープをマーキングとして立木の胸の高さほどに結びつけておいた。目印ともなる。なを、鎌研ぎ沢上流には図に示しているように滝があり、迂回は難しそうであった。赤色丸が新しく見つけた露頭鉦脈である。後掲の写真2、写真3及び、添付資料の鉦山図を参照のこと。

鉱山跡写真



写真1 図1, 2のP4の場所。有料道路の途中から鎌研ぎ沢へ向かう林道の入口。林道を途中で外れ、後はガーミンを頼りに下っていく。沢直前までは歩くのに不安はない。が、沢直前では少し急斜面となるか。注意すれば良いであろう。



写真2 鎌研ぎ沢中の黄鉄鉱の露頭鉱脈。この付近に数カ所の露頭脈がある。2017年7月16日時の様子。

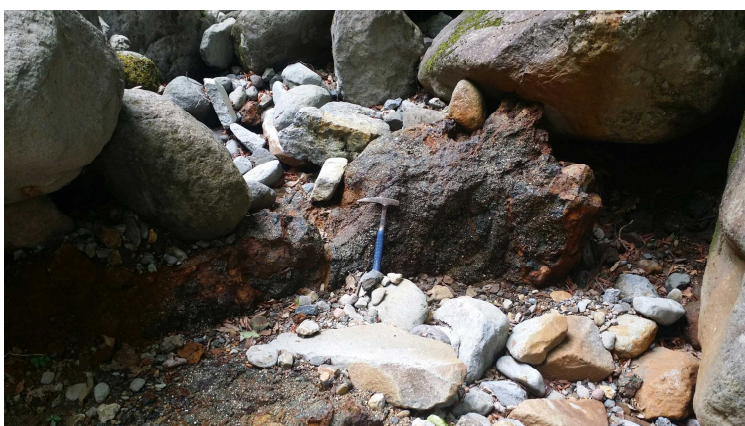


写真3 写真2と対照できる。2018年7月12日時の様子。資料によれば、この付近の露頭脈は下に伸びているので、当分はつきることはない。タガネやスコップなどを持参すると良い。

採集鉱物写真



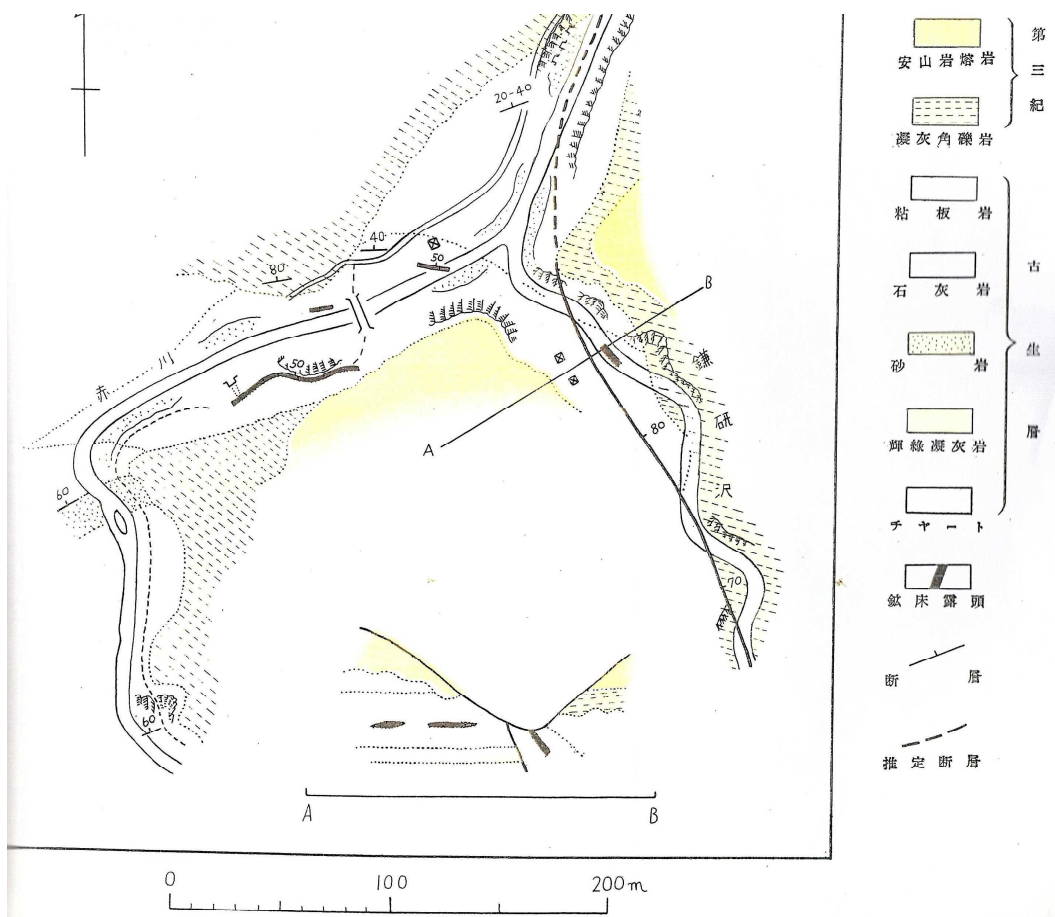
写真4 約2cm立方の黄鉄鉱単結晶。出るのは希なようである。大きな不定形黄鉄鉱の塊は結構出てはくるが、結構脆い。



写真5 黄鉄鉱が豊富な採集した標本。脆いので優しく梱包する必要がある。

資料

昭和28年に実施された報告書「地下資源調査報告書 第2号」、栃木県」より複写掲載。現在の地形図である図3と良く対比できよう。



鎌研ぎ沢の「鉦床露頭」は図3、写真2、写真3で紹介した。この鉦山図を参考にして、他の箇所も探査するのも良いであろう。元湯あたりからこの鉦山跡までのルートは林道の幅も一応広く、かつ結構平坦である。かつて、森林業のためにトロッコ道が敷き設されていたとか。それも合点が行く。